

痛風発作と血清尿酸値の関係

監修：みどりヶ丘病院 副院長 清水 徹

出典：医薬の門, Vol.44 No.1, 70-72, 2004

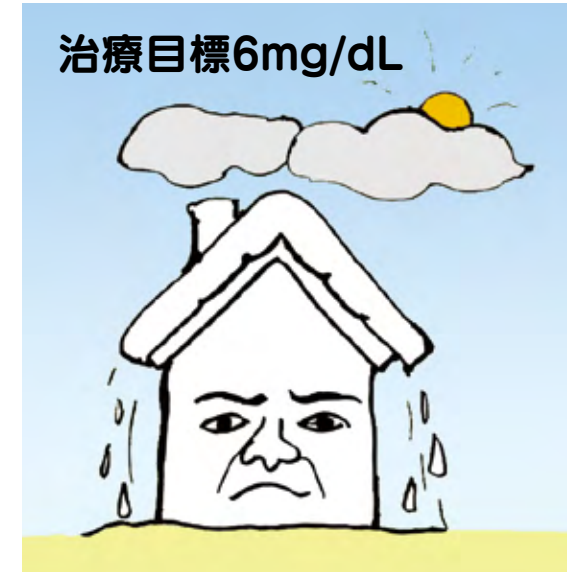
高尿酸血症を“雪”で表すと…



血清尿酸値7mg/dL以上は“雪”



ある日突然、屋根から雪が崩れ落ちて…



尿酸値はゆっくり下げる



尿酸値が急激に下がる
と痛風発作が起こる



医師の指示に従って
“生涯治療”

痛風発作と血清尿酸値の関係 (解説の手引き)

痛風患者さんの治療コンプライアンスを高めるためには
**患者さんに痛風発作と血清尿酸値の関係を
正しく理解していただくことが大切です。**

結晶脱落説に基づいた痛風発作のメカニズム

- 血清尿酸値の正常値 (上限) は7.0mg/dL
これは体液中での尿酸塩の溶解度に基づいた値です
- 尿酸値が7を超えると尿酸塩結晶が析出し、関節滑液膜に微小痛風結節 (microtophus) が形成されます
- 高尿酸血症が持続すると微小結節は次第に大きくなります
- これがある日突然自壊して関節内に尿酸塩結晶が脱落し、激しい急性関節炎 (痛風発作) が起こります

表面解説



高尿酸血症 (血清尿酸値7mg/dL以上) を「雪」で表して、痛風発作や治療の必要性を説明する

高尿酸血症



- 高尿酸血症 (7mg/dL以上) が持続すると尿酸塩が蓄積していく (数年間は無症状)
- 痛風発作は一過性に尿酸値が上昇しても起こらない

痛風発作



- 尿酸塩の蓄積が進むと、ある日突然結晶脱落が起こる (高尿酸血症が発症してから5~10年後)

治療目標 6mg/dL



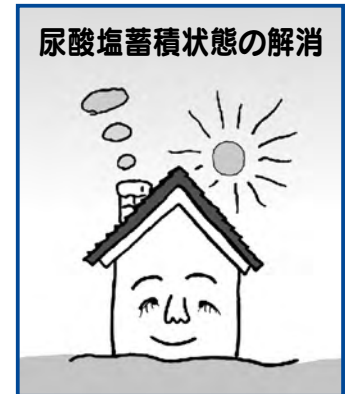
- 尿酸値はゆっくり下げる
- 下げすぎる必要はない

尿酸値は急激に下げてはいけない



- 尿酸塩蓄積状態で尿酸値を急激に下げると発作が誘発される
- 特に発作直後は結晶脱落を起こしやすいので、要注意
- 発作重積症に陥ると、炎症はなかなか治らない (遷延化)

尿酸塩蓄積状態の解消



- もはや痛風発作は起こらない
- この後は血清尿酸値が7を超えないようにコントロールする



鳥居薬品

医療関係者用